

春から始める社労士受験！ 一発合格必勝法

TAC社会保険労務士講座 講師 武田 暁

1

資格に関する自己紹介

①資格取得歴

- 行政書士：1発合格
- CFP：全6科目中5科目1発合格
- FP1級：1発合格
- 年金アドバイザー2級：1発合格
- 社会保険労務士：1発合格
- 宅建士：1発合格

②資格・試験に関する業歴

- 社団法人にて認定資格制度運営
(資格制度構築、講師、**問題作成、合否判断**)
- TAC講師：社会保険労務士講座
 - ・総合本科生
 - ・上級本科生
 - ・オンラインライブ通信

2

I ・ 社労士試験学習に向けて 1. 早期学習のメリット

2026年8月の社労士試験へ向けて、今から学習を始める

- ・ 計画的な学習習慣を身につけることができる
- ・ 段階的な学習スケジュールが組める
- ・ 学習途中でのリカバリーが可能

最大のメリットは

約1年間超の学習をしたことが、本試験への自信に繋がり、
又、合格後も社労士学習をきちんとしたと言える

3

I ・ 社労士試験学習に向けて 2. 試験の傾向（過去5年の推移）

	R2	R3	R4	R5	R6
申込者数	49,250	50,433	52,251	53,292	53,707
受験者数	34,845	37,306	40,633	42,741	43,174
受験率	70.8%	74.0%	77.8%	80.2%	80.4%
合格率	6.4%	7.9%	5.3%	6.4%	6.9%

合格率は5～6%（100人中5人から6人）
受験率が近年アップしている
※税理士・司法書士に近くなっている
真剣に獲りに来ている

4

I ・ 社労士試験学習に向けて 3.社労士試験は初学者に不利か

強み

- ・ 先入観がない
- ・ 苦手や癖がない
- ・ 試験に落ちてない

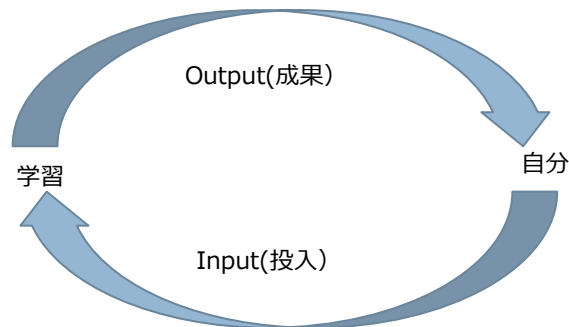
弱み

- ・ 学習経験不足
- ・ 全体像が分からない
- ・ 諦めやすい

初学者は受験経験者に対してスタート時は劣勢
ただし、学習をすることで追いつくことが可能であり
試験に対してのメンタル部分では優位（強み）である
弱みの部分は克服出来る

5

I ・ 社労士試験学習に向けて 4.目標を立てる



- Step1：どんな成果を得るかを決定（得点）
Step2：それを達成するために投入（学習時間）
成果を決めてからそのための学習をする
大半の受験生は逆です

6

I ・ 社労士試験学習に向けて 5.学習方法の決定

自分自身の学習方法を決定する

- ①学習時間の検討
- ②学習スタイルの決定
- ③教材、問題集の選定
- ④学習計画の立案



やみくもに学習をスタートさせるのは挫折しやすい
合格までのスケジュールを見据えて学習方法を考える

7

I ・ 社労士試験学習に向けて 6.学習時間の確保

自分の1日でどの時間を学習時間に充てられるか
固定の学習時間の確保が出来るように
時間が出来たから勉強でなく、学習時間を作る努力

学習時間の作り方

- 自分の生活スタイルを見直して
- 朝、又は夜に学習時間を作る
 - 通勤時間の活用
 - 休日の活用
 - 通学者であれば講義前、講義後、休み時間の活用
 - 強制的に学習環境を整える

8

Ⅱ・一発合格学習方法

1.学習ステージ

学習期間を3つのステージに分ける

①基礎学習 (学習脳づくり)

2025年4月～2025年9月：基礎学習期 (基礎マスター)

②基本学習 (知識の定着)

2025年9月～2026年4月：基本学習期 (総合本科)

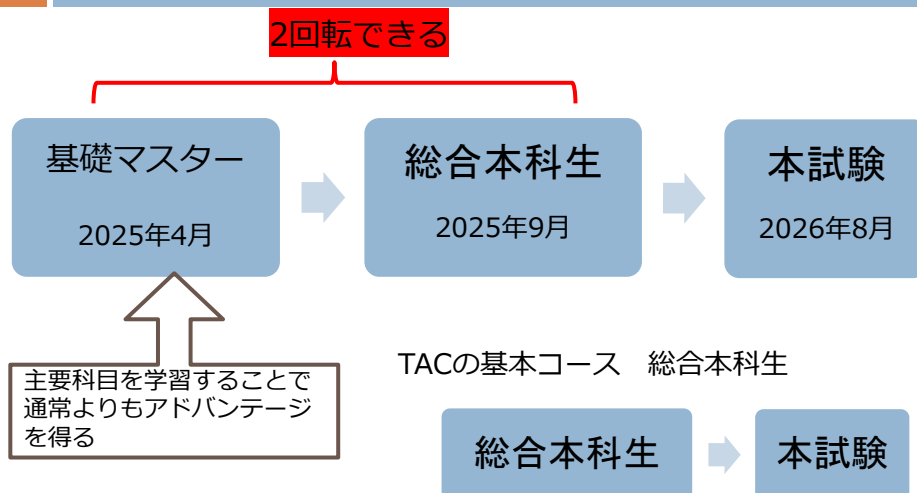
③直前学習 (点数を獲る訓練)

2026年5月～2026年8月：直前学習 (直前編)

各ステージでの目的は異なります

9

総合本科生Wideの流れ



10

2回転は有利なのか???

低合格率（5～6%）と言うことは
複数回受験者も多数いる（3回以上受験者も多い）

そんな状況で2回転が有利なのか???

実は受験回数では2回は少ないほうです

2回転（基礎マスター受講）をアドバンテージ
とするための**学習が必要**

11

Ⅱ・一発合格学習方法 2.基礎学習のテーマ（1回転）

- 1日又は1週間の中で定期的な学習習慣を作る
- 試験科目の全体像を知る（**知ることに注力**）
- 自分の得意・興味のある分野を見つける
- 用語や言い回しになれる

全体像が分からなければ学習が不安
どんな内容か知っていれば、後の学習に余裕ができる
試験を点を獲ることが合格の秘訣
得意科目は必須です

12

Ⅱ・一発合格学習方法

3.基本学習のテーマ（2回転）

知識をしっかりと定着させ、全体の学習をしっかりと終わらせる

- 暗記でなく内容の理解に努める（**理解**に注力）
- 問題演習を積極的に行う（特に過去問）ただし、〇×にこだわらず、その問題のポイントを掴む
- 一つの科目に執着せず、計画に沿って学習を進める

覚えることは**とき**が解決します
覚えられないのは内容が理解出来ないから
学習は前へ進むことが大切です
全体を学習して分かることがあります

13

Ⅱ・一発合格学習方法

4.直前学習のテーマ（仕上げ）

本点数を獲得するための学習を行なう

- 問題演習を繰り返す（五肢択一、選択式問題）
- 点数を獲得するための問題演習を行う（**点数**に注力）
- 法改正のチェック

試験は点取りゲームです
知識があっても正解しなければダメ
正解を獲得するための訓練が必要です

14

Ⅱ・一発合格学習方法 7.社労士合格への3つの鍵

- ①暗記よりも伝えることを
- ②得意科目を作る
- ③問題演習は作業にしない



この3つの鍵を意識して学習をしてください
合格への扉を開ける鍵を手になれます

15

Ⅲ・社労士試験の概要 1.出題形式

16

択一式

- 労基（7問）安衛（3問） 10問
- 労災（7問）徴収法（3問） 10問
- 雇用（7問）徴収法（3問） 10問
- 一般常識
（労一（5問）社一（5問）） 10問
- 健保 10問
- 厚年 10問
- 国年 10問

合計 70問 【70点】

選択式

- 労基（3問）安衛（2問） 5問
- 労災 5問
- 雇用 5問
- 労一 5問
- 社一 5問
- 健保 5問
- 厚年 5問
- 国年 5問

合計 40問 【40点】

合格基準（R6年度）

総得点44点以上かつ各科目4点以上

合格基準【R6年度】

総得点25点以上かつ各科目3点以上
※労一：2点

16

Ⅲ・社労士試験の概要 2.試験問題の傾向

近年の傾向

- 問題が難化
- 出題形式の多様化
- 問題文の長文化
- 判例・事例問題の出題

なぜか？

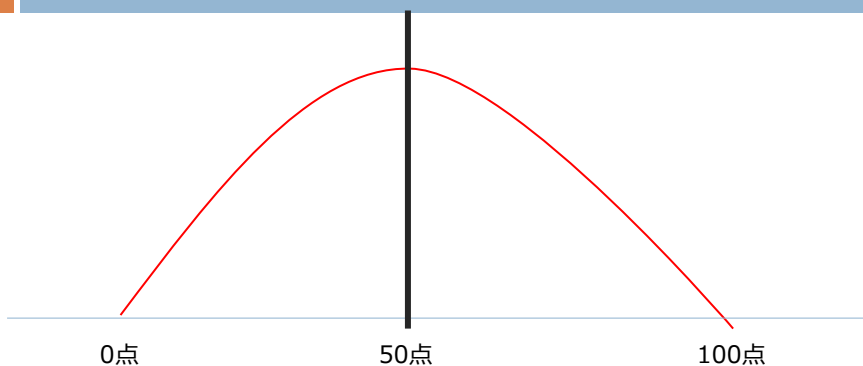
出題者心理考察

- 点数分布を5割付近へ
- 単純な過去問のコピーは×
- 読解力・理解力を問う
- 落とす試験である



17

Ⅲ・社労士試験の概要 3.作問者の意図



中央値に最多の人数になるような点数分布が理想
そのために、出題に工夫している
単純な過去問の焼き直しは減少しているが
論点は変わらない

法律の趣旨が変わらなければ、論点は変わりません

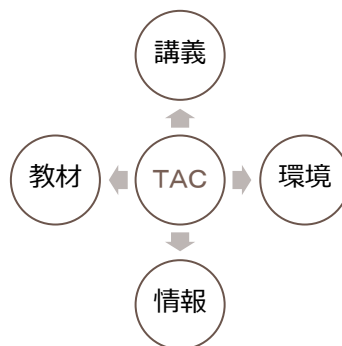
18

IV・合格への道

1. T A C 活用方法（範囲の経済から）

有効性・効率性を良くする為には**範囲の経済**を利かす

- 講義で知識の習得
- テキストの活用
- 学習スケジュールの組立
- 自習室の利用
- 法改正・試験情報の入手
- 模試・各種テストの活用



T A C 生は時間・コストを有効活用できる

19

IV・合格への道

2. 基礎マスター講義の活用

社労士試験は範囲が多岐にわたります

直接の試験科目ではありませんが、憲法・民法等の知識も必要

本格的学習の前に先ずは全体を見るのが有効です

（社労士試験の範囲を知る）

秋からの総合本科に備えるのが基礎マスター講義です

法律用語や経済用語等も学べます

本格的な学習前に十分な準備を
して来年の合格へ繋げましょう



20